

イネカメムシを中心とした防除体系

グリーンな栽培体系転換サポート事業

イネカメムシの被害とは？

イネカメムシの成虫は、水稻の出穂期に飛来し不稔と斑点米の発生の一因となります。
近年、イネカメムシを中心としたカメムシ類による不稔の発生で、平年より大幅に減収する事例が報告されています。



不稔が発生したほ場



斑点米



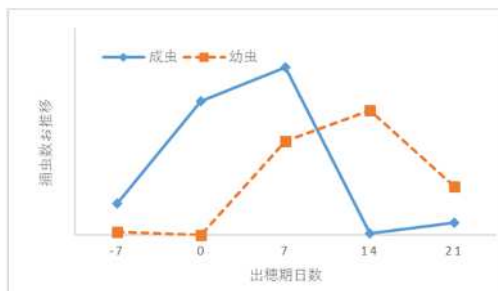
イネカメムシ成虫



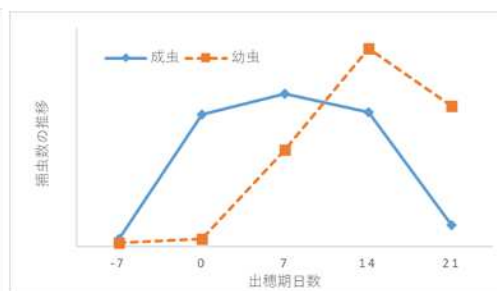
イネカメムシ幼虫

イネカメムシの発生消長

成虫は出穂期から出穂期7日後に、幼虫は出穂期14日後に発生が多くなりました。
8月出穂期のほ場は、周辺ほ場の収穫にともなう移動があるため、成虫の飛来期間が長くなりました。



7月出穂期ほ場



8月出穂期ほ場

このグラフは調査ほ場の捕虫数合計で作成しました。
7月 14ほ場
8月 6ほ場

防除方法

液剤は粒剤より防除効果が高くなります。
栽培管理支援ツールAgr iLookで出穂期を確認。

<液剤2回防除> 防除効果が高い
1回目出穂期+2回目出穂期10日後

<粒剤2回防除>
1回目出穂期10~3日前
+2回目出穂期0~10日後
(2回目を液剤にすると、粒剤2回防除より防除効果が高くなります)

使用薬剤は地域の実情にあわせて選択してください

防除の省力化

乗用管理機からドローン防除にすると防除時間が3割削減できました。



愛知県農業総合試験場普及戦略部技術推進室

県内のイネカメムシで薬剤感受性の低下により防除効果が劣った事例がありました。防除後はほ場の様子を確認するとともに、農業総合試験場の研究成果など最新情報を得て防除指導を行ってください。